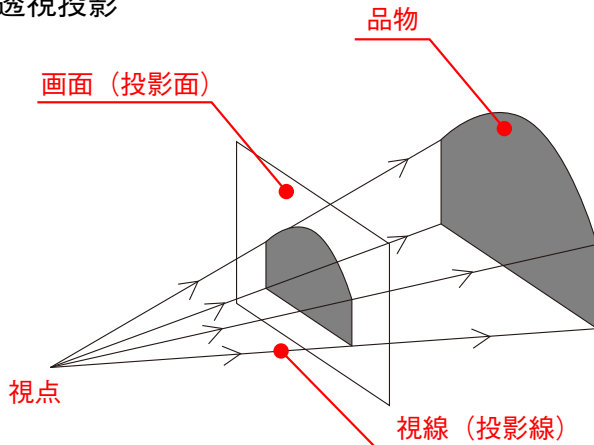


透視投影

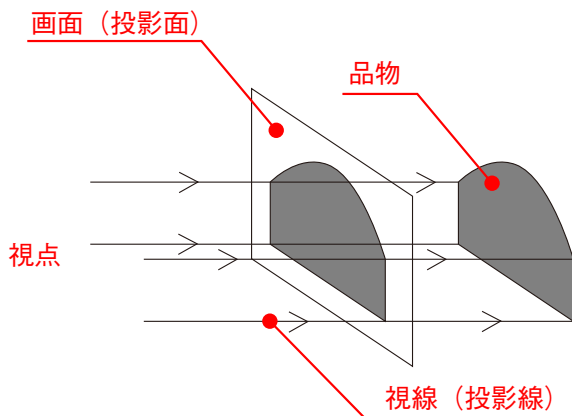
とうしとうえい

あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字

透視投影



平行投影



概要

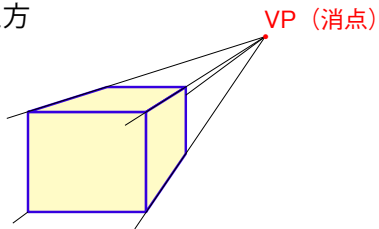
透視投影は、中心投影とも呼ばれ、三次元の物体を平面上で表現するための図法（投影法）の一つで、パースペクティブ・ドローイング、略してパースとも呼ばれます。対象物を目を見た時と同じような表現ができるので、デザインの領域では、設計の予測や仕上がりの状態を表現する手段として、いろいろな分野で活用されています。例えば、建築の外観図や、プロダクトデザインのレンダリング（完成予想図）などに、さらには都市空間を示す鳥瞰図（上から見下ろした図）や公園などの景観図、室内の見取り図などにも応用される幅広い手法です。

透視投影では、視点から物体までの視線が、一つの視点に集められるという特徴があります。視点が一つに集まらず平行である、という考え方は平行投影と呼ばれ、工業用図面で多く採用されている第三角法などが含まれます。

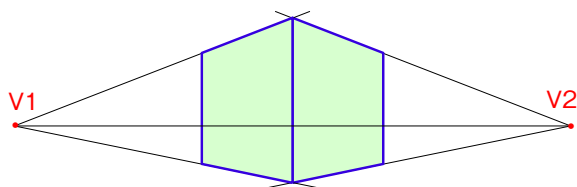
透視投影によって描かれる図は、視点と消失点（※1）の設定によって、一点透視図法・二点透視図法・三点透視図法に分けられ、各図法はそれぞれ、いくつかの作図方法によって描き表すことができます。これらの図法は、適宜使い分けることができますが、例えば一点透視図法であれば、室内などの正面性を重視した表現に利用できるでしょうし、二点透視図法は、建物などの立体感を表現しやすいと言えるでしょう。また三点透視図法は、都市など大きな対象物を、スケール感を持って表現したい時に用いることができます。なお、このような表現方法は、遠近感や立体感を表現する手段として絵画でも応用されており、ルネサンス以降、レオナルド・ダ・ヴィンチやアルブレヒト・デューラーなどの画家たちが、透視投影図法を応用した様々な試みを行ってきたことを今日でも見ることができます。

（※1）消失点（もしくは消点）とは、高層ビルを見上げた時や、遙か彼方に向かって伸びる道を見た時に、遠くなるほど幅が細くなり、やがて一ヶ所に向かって収束していくように感じられる点のことです。

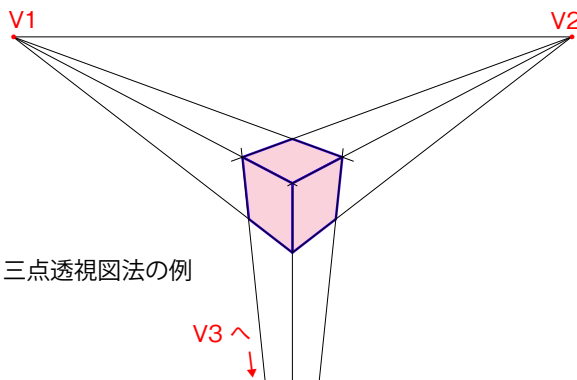
透視図法の考え方



一点透視図法の例

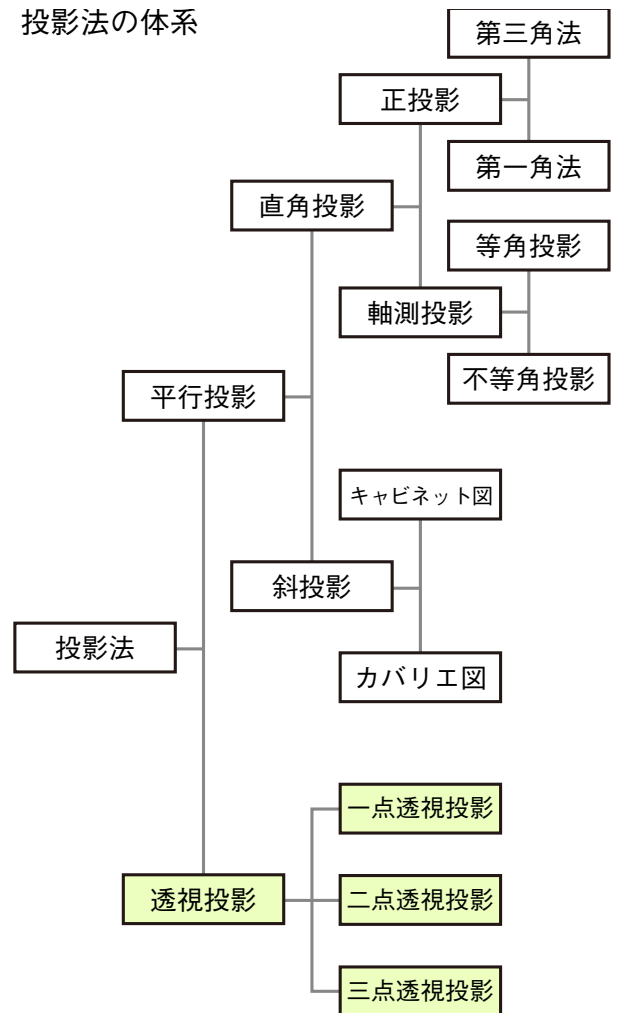


二点透視図法の例



三点透視図法の例

投影法の体系



あ
か
さ
た
な
は
ま
や
ら
わ
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P
Q
R
S
T
U
V
W
X
Y
Z
数字